

漁海況旬報

No. 14 - 22

ちば

平成14年8月5日発行

千葉県水産研究センター
千葉県水産情報通信センター

2002年春季カツオ曳縄漁のまとめ

1. 黒潮流路

黒潮は概ねN型で、5月にB C D型となりました。離岸距離は野島崎から概ね45マイルで、5月中旬に一時的に60マイルまで離岸しました。

2. 漁況

2月下旬に勝浦南50～60マイル付近に漁場が形成され、操業が始まりました。

1月～6月の3港（川津・勝浦・天津港）の水揚量は183トンで昨年（325トン）を下回り、過去10年平均（534トン）も下回りました（図1）。漁況は過去10年平均を終始下回りました（図2）。4月下旬が盛漁期となり、5月下旬にはほぼ操業が終わり、イカ釣り漁業や磯根漁業に切り替わりました。

主漁場は3月～4月中旬では勝浦沖60～80マイルで、黒潮の内側域ではほとんど形成されませんでした（図3）。4月下旬～5月上旬は勝浦沖30マイル付近と大島周辺に形成され、5月中旬以降は新島周辺にも形成されました。6月には勝浦沖の漁場は消滅しました。

魚体は2月では尾叉長51～53cm主体に42～43cmが混獲されました（図4）。3月は40cm台～50cm台が漁獲されました。4月は40cm台前半、5月は42～43cmが主体となりました。

川津港の平均単価は600～2,000円で推移し、過去10年平均を終始上回りました（図5）。

3. その他の情報

- 和歌山県主要3港（曳縄）による1～5月の水揚量は1,267トンで過去21年平均（978トン）を上回る豊漁でした。
- 八丈島の曳縄による1月～5月の水揚量は318トンで過去6年平均（646トン）を大きく下回りました。
- 他県竿釣り船による勝浦港への1～6月までの水揚量は6,961トンで、過去10年平均（9,419トン）を下回りました。

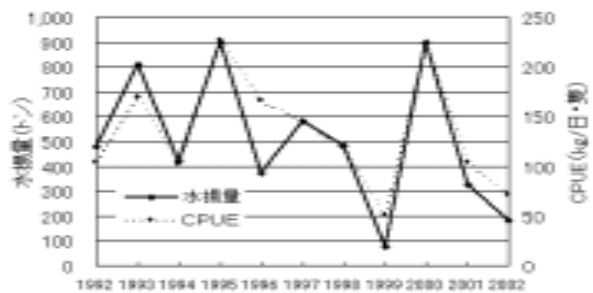


図1 年別水揚量とCPUE（1～6月）

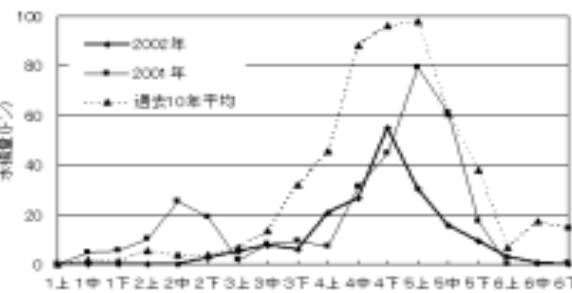


図2 旬別水揚量

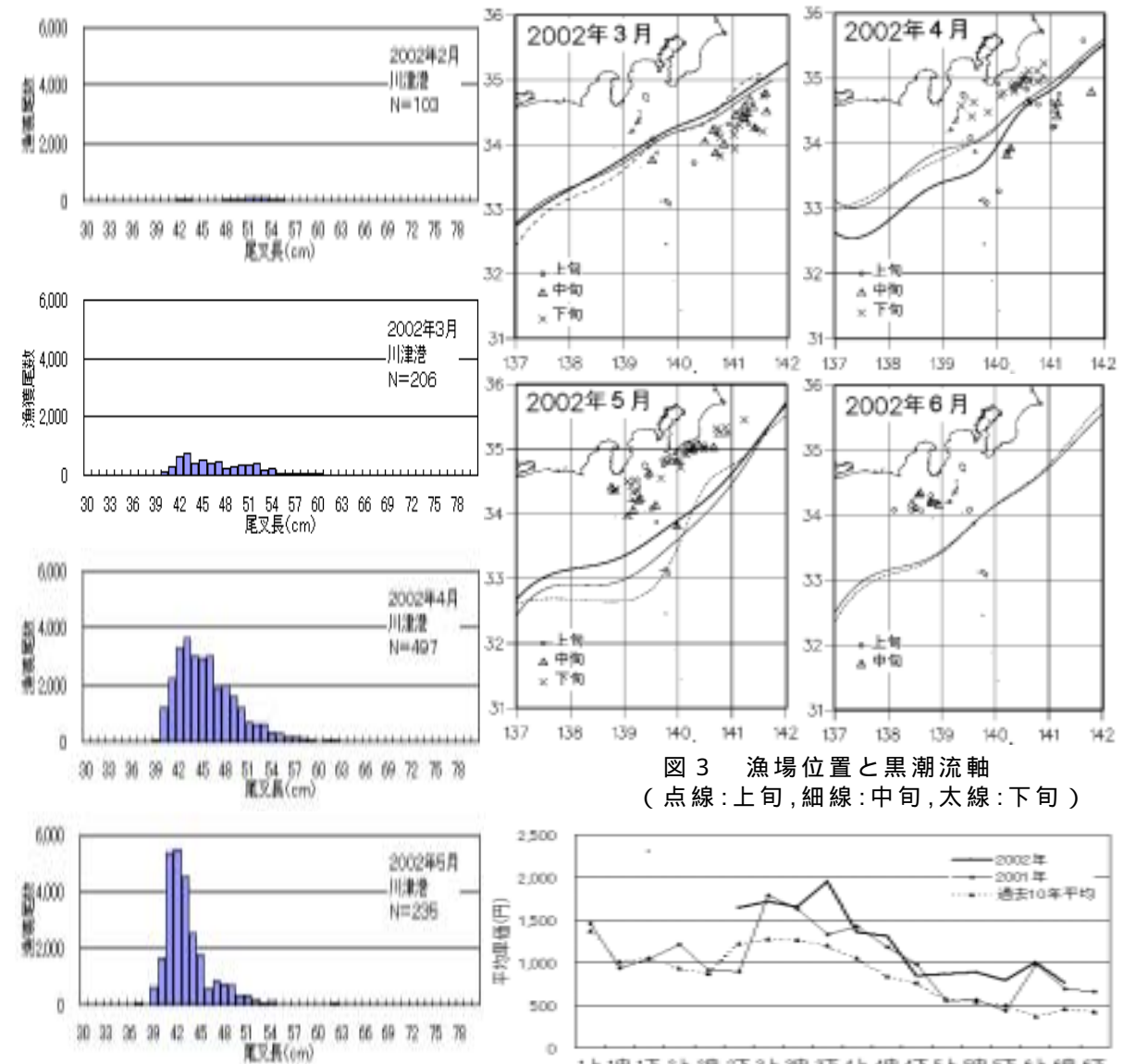


図3 漁場位置と黒潮流軸
(点線:上旬,細線:中旬,太線:下旬)

図4 体長組成

図5 旬別平均単価

3. まとめ

今期は1999年に次ぐ不漁となり、予測量を下回りました。1月～6月のCPUEは71kg/日・隻で過去9年平均（143kg/日・隻）を大きく下回り（図1）、房総沿岸域への来遊量はかなり少なかったと考えられます。竿釣り船の漁場位置をみると（図6）、例年形成される房総半島の沖合で漁場形成が悪く、主漁場は小笠原周辺や145°E以東の黒潮続流域に形成されていました。このことから伊豆列島線を北上するカツオの来遊量が少なかったと推測され、房総沖での曳縄漁の不漁につながったと考えられます。



図6 竿釣り船の漁場（5月）